

東京有明医療大学雑誌 Vol.1, 2009 抜刷 (2010年6月)

ナイチンゲール文献研究における
『A Bio-Bibliography of Florence Nightingale』の意義と、
本書が日本のナイチンゲール思想研究に
及ぼした影響について

金 井 一 薫

ナイチンゲール文献研究における
『A Bio-Bibliography of Florence Nightingale』の意義と、
本書が日本のナイチンゲール思想研究に
及ぼした影響について

金井 一薫*

英文抄録

An earnest investigation about bibliography of Florence Nightingale was started by W.J.Bishop in 1954, and “A Bio-Bibliography of Florence Nightingale” was published in 1962. It encloses 150 works. Although this book has not been known in Japan yet, 47 works have been translated to Japanese. This time, I have analyzed 47 works and concluded that the book have strong impact on nursing study in Japan.

キーワード

1. Florence Nightingale
2. Bio-Bibliography
3. Japanese translation
4. concept of nursing
5. impact

和文抄録

Florence Nightingale が書き残した印刷文献については、1950年代になってから本格的な調査が行なわれ、1962年にイギリスにおいて出版された『A Bio-Bibliography of Florence Nightingale』において150編が紹介された。本書の存在は、日本では未だ知られていないが、今回の調査で150編のうちの47編がすでに邦訳されていることが確認できた。邦訳された文献の傾向を分析することによって、わが国における本書の存在意義を検討し、合わせて今後のナイチンゲール思想研究のあり方を模索する。

和文キーワード

1. フロレンス・ナイチンゲール
2. 解説著作目録
3. 邦訳文献
4. 看護の概念
5. 影響

*東京有明医療大学 看護学部長 E-mail address : h-kanai@t-ariake.ac.jp

I. 緒言

Florence Nightingale (フロレンス・ナイチンゲール：1820～1910) は、名実ともに近代看護の創始者である。しかしながら、彼女の知られざる業績はまだ多く、その著作もまた膨大である。21世紀に入った現時点において、ナイチンゲール思想を研究しようとするばあい、手掛かりとなる著作を通して、彼女の思想を奥深くまで探ることはさほど困難な事業ではない。むしろナイチンゲールの著作は、全般にわたってその保存状態はよく、入手も比較的容易で、文献研究に着手する環境は整っている。

しかしこうした環境が最初からあったわけではない。この状態を整えるために大きな役割を担ったのが、イギリス人で医療ジャーナリストの W.J.Bishop 氏であり、彼とその秘書の Sue Goldie 女史が編集した『A Bio-Bibliography of Florence Nightingale』(フロレンス・ナイチンゲールの解説著作目録) がなかったら、ナイチンゲール思想研究は今日あるようには進まなかったに違いない。本書は1962年に出版されたが、本書によってナイチンゲールの手になる膨大な著作の全貌がその姿を現したのである。本書はナイチンゲール研究、とりわけ彼女の思想を研究する者にとって、宝の書籍であると同時に、必読書でもある。

ところが不思議なことに、本書の存在はわが国のみならず、世界の看護界においても未だほとんど知られることなく経過した感がある。そこで、本稿においてその内容を紹介すると共に、現時点におけるわが国のナイチンゲール思想研究に及ぼした、本書の貢献について考察することにする。

II. 『A Bio-Bibliography of Florence Nightingale』出版の経緯について

生きながらにして伝説の人と化したナイチンゲールが、実はその90年に及ぶ生涯の中で、150点とも200点とも言われる印刷文献を書き残していたとは、誰もが想像さえしない事実であった。その内容はいったいどのようなものであったのか？ 調査が行なわれたのは1950年代からで、Bishop 氏によって開始されたようである。

筆者が本書を入手したのは1977年であるから、それは出版から15年も経過した時点であった。しかしながら当時ナイチンゲール思想研究を手懸けようとしていた筆者にとっては、正に運命的な出逢いともいべき貴重な1冊であった。Bishop 氏はイギリスに散在するナイチンゲールの手になるほとんど全ての著作を入手し、それらを分類し、解説し、まとめていたからである。本書がわが国のナイチンゲール思想研究に及ぼした影響は計り知れない。

本章においては、これまで翻訳されてこなかった『A Bio-Bibliography of Florence Nightingale』の「まえがき」と「序文」の部分を翻訳することとした。これにより、本書が編集される過程と本書出版の意義、さらには、本書の構成や性格を理解することができるはずである。

1. 『A Bio-Bibliography of Florence Nightingale』FORWARD (訳：金井一薫)

「……伝説化されたフロレンス・ナイチンゲールの名声は、今や不朽のものとなっているが、一方

で彼女の著書は顧みられることなく、その最も重要な業績は忘れ去られている。彼女が今日という時代に向けて伝えようとしたメッセージは、ほとんど理解されていないといってよい。」

「フロレンス・ナイチンゲールの、公衆衛生、病院建築と病院管理、医療統計、そしてインドおよび植民地における衛生と福祉に関する見解と業績は、彼女の看護領域における業績よりも、はるかに幅広い影響力をもっている。看護においてナイチンゲールが行なった大革命の成功は、この分野の技術のさらなる発展に制限をもたらすことになってしまった。—これは矛盾する状況であるが、他の多くの偉大な先駆者たちの例においても、同様に見られる現象である。ナイチンゲール女史に対してこのように言える根拠は、彼女が出版した200点もの著作や冊子や論文、さらに現存する12,000点を超える彼女の手紙の中に見出すことができる。……」

「今の時代こそ、看護専門職である指導者たちは（さらには、他の医療専門職の指導者たちも）、伝記作家による伝記ではなく、ナイチンゲール女史自身が書いた著作に接するべきである。手始めに、1893年にシカゴで開かれた有名な万国博覧会の看護分科会に寄稿した彼女の論文から読み始めてもよいだろう。この論文の中で彼女は、病気を治療するのではなく、病人を治療すべきであると言い、また病気を治療することよりも、病気を予防することのほうがはるかに大事であると述べている。また今は常識とされている入院治療も、真の健康にとっては絶対ではありえないこと、さらに看護は確たる理念を土台として、その上で、その実践方法において常に必要な変化を加えていくべきであると論じている。さらに『時代社会の固定観念にとらわれてはならない。』とか、『われわれはまだ、看護の入口に立ったばかりである。』と述べており、彼女の著作の中には、現代の社会学や心身医学の専門家たちの見解を、はるかに先取りする指摘も多くみられるのである……。」

「ナイチンゲール女史は生きながらにして伝説の人となった、と書いたのは、彼女の親友 Benjamin Jowett であった。彼女は今も依然として“伝説の人”である—しかし、それは全て誤まった理由による。」

上記の抜粋は、ミルバンクにある王立陸軍医学校の「王立陸軍医学会誌*」の編集者宛てに送られたもので、医療史の編集者である W.J.Bishop 氏からの手紙の引用であるが、これは、学会誌上で行われたフロレンス・ナイチンゲールに関する討論に向けて寄稿されたものである。

ここで述べられた内容の根拠は、ナイチンゲール女史が書いた200点もの出版物あるいは未出版物、また冊子ならびに記事の類い、さらには12,000点を越す彼女の手紙の内容から証明できるのであるが、それらは Bishop 氏によって進められた、約7年にも及ぶ壮大な研究プロジェクトのテーマとも一致している。そしてこのプロジェクトは、国際看護師協会 (I.C.N.) とフロレンス・ナイチンゲール国際基金 (F.N.I.F.) によって着手され、また支援されたものである。

これらの研究の最初の成果が、この Bio-Bibliography of Florence Nightingale (フロレンス・ナイチンゲールの解説著作目録) であるが、最終的な成果は、現在出版に向けて準備中の、広範囲に及ぶ彼女の手紙をまとめた注釈付目録の中に見い出せるであろう。

*この手紙は1961年10月の学会誌に記載された。

Bishop 氏の1961年7月の早すぎる死によって、このプロジェクトに対して熱心であった研究者や、I.C.N. および F.N.I.F. にあって、気心の知れた有能な協力者たちが去っていった。1954年9月に、Bishop 氏がこのプロジェクトに取り組むべく招かれてからというもの、このプロジェクトチームは著作目録を完成させるという点において、また Bishop 氏と一緒に、彼が出合った新たな情報や興味深い記述を共有し、彼と共に愉しむことができるという点において、まさに1つの特権を保持していたのであった。I.C.N. の教育委員会の会合において、彼の経過報告はいつも脚光を浴びたし、Bishop 氏の名前は、I.C.N. という組織を通して、あるいはこのプロジェクト自身がつ国際的性格上、徐々に多くの国々の看護師たちに知れ渡るようになっていった。

Bishop 氏の仕事を誰かが完成させなければならないという状況のなかで、Bishop 氏の助手として、また秘書として身近に仕事をしてきた Sue Goldie 女史の援助を得ることが出来たのは、まったくの幸運であったといえよう。彼女は、プロジェクトそのものに精通していたばかりではなく、Bishop 氏の仕事の方法にも通じていたのである。Goldie 女史はこの著作目録を完成まで導いた。彼女は有能で、この困難な作業をよく理解し、作業遂行の過程では、実に謙虚であった。このことに私たちは感謝の意を表するものである。

私たちは心からの謝意を下記の方々に贈りたい。それはウェルカム医学史図書館司書の F.N.L Poynter 博士と、副司書の E. Gaskell 氏、そして図書館員である。彼らは図書館において作業を容易に行なうための便宜を図ってくださり、援助や助言をくださった。デンマークアーhus 地方自治体公衆衛生課の看護師長、Bodil Dyhre 女史にも謝意を表したい。彼女は著作目録の最初の掘り起こし作業を引き受けて下さり、フロレンス・ナイチンゲール文献が収蔵されている場所を探索してくださった。また Harry Verney 卿に対しても心から感謝申し上げたい。彼はクレイドンハウスが所蔵しているコレクションを寛大に編纂者へ開放してくださった。さらに大英博物館及び国内外の大きなコレクション収集施設に対して感謝する。こうした施設からは、情報提供と寛大な援助をいただいた。加えて世界各地から個人的に貢献してくれた方々にも感謝の意を表したい。彼らは手紙類や原稿、また様々な形で情報を送ってくださったからである。

I.C.N. と F.N.I.F. は、この研究論文の第一版である、完成版の Bio-Bibliography of Florence Nightingale (フロレンス・ナイチンゲールの解説著作目録) を紹介することに大きな誇りを抱いている。そしてこの著作目録が、フロレンス・ナイチンゲールの生涯とその業績を、直接的に研究しようと志す人々の真の助けになることを望むものである。

私たちはこの著書目録を世界の看護師たちに捧げる。また同時に、フロレンス・ナイチンゲール自らが強い関心を抱いた全ての職業の後継者で、今日の看護師たちが彼らと協働している姿を見て、彼女が喜ばしく思うであろう人々に対しても本書を捧げるものである。

ELLEN BROE

国際看護協会・教育担当部長

2. 『A Bio-Bibliography of Florence Nightingale』 INTRODUCTION (訳：金井一薫)

本書は、フロレンス・ナイチンゲールの印刷文献を、完全解説付で出版して世に提供することを試みた、初めてのものである。その並はずれて多忙な生涯にあって、ナイチンゲール女史は多くの著作や冊子、雑誌記事、覚え書などを著した。彼女が取り上げたテーマは多彩で、よく知られている看護に関するものだけでなく、陸軍の健康と衛生、病院組織と統計、インドの領土改革、社会学、宗教と哲学、さらには正しい鳥の飼い方といった領域にまで及んでいる。彼女は改革運動の先頭に立っていたが、当時最も権力ある政治家や政府高官たちと親しく付き合っていた。彼らを通して、彼女は改革へのプランを練り上げることができたのである。それは彼女の手によって注釈の付けられた膨大な数の公文書が示す通りである。彼女は自室に居ながらにして、陸軍の改革、インドにおける衛生問題の改革、及び救貧院と救貧法執行に関する政府の白書を編集し、校正し、投稿も行なっている。こうしたことのすべてに加え、彼女は自らの信念に従い、それらに基づいて、他の人々の著作に対しても、前書きや序文を多く寄稿している。

印刷されたとはいえ、これらの文献の多くは、必ずしも広範囲にわたって公開しようとして書かれたものではなかった。ナイチンゲール女史は、自ら記述したものを校正することを好まず、自らが書いたメモや覚え書などを、私費出版するために私財を投じることを厭わなかった。そうすることで、興味を抱いてくれる友人たちに、そういった覚え書を配ることができるようという配慮からである。これら長期保存を目的としない印刷物はかなり貴重なものであり、大英博物館のナイチンゲール文献の中や、ウェルカム図書館、聖トマス病院、クレイドンハウスなどにおける常設コレクションの中に見出されるのみである。また政府公文書への寄稿文も、大英博物館やインド省図書館の暗い奥まった場所に葬られてしまう傾向にあった。一方で、本格的に出版された彼女の著書—これらには、彼女が特に一般に公開されることを望んだ、政府公文書からの抜粋や補章が含まれる—はきわめて広範囲に分散して存在しており、数多くの小規模なナイチンゲール文献コレクションの中に見つけ出すことができる。

それ故、これまで多岐にわたる個々の印刷文献の所在を明らかにする試みがなされたことはなく、ただ過去に複写されたことのある場所で、もっとも入手可能な文献の所在のみが提示されるに過ぎなかった。本書出版の目的は、フロレンス・ナイチンゲールの膨大で広範囲にわたる著作を紹介することであり、同時に、どのような特定の文献であっても、読者が興味をもったものは必ず探し出し、閲覧を可能にすることにある。

この著作目録は、Edward Cook 卿のきわめて広範囲におよぶ「フロレンス・ナイチンゲールの印刷文献一覧」を基にしている。ちなみにこの一覧は、彼の優れた著作である『フロレンス・ナイチンゲールの生涯』第二巻の末尾 (pp.437-458) に掲載されたものである。これに、主としてナイチンゲール女史が私費出版した文献のコレクションと、1914年以降に出版された彼女の個人的書簡を、幾つか

追加しておいた。一方で、Cook 卿は原稿の存在を見つけ、何らかの理由でそれらが出版されたであろうと思われる類のかなり多くの著作を、彼が作成した文献一覧の中に含めている。こういった作品が後に出版物として確認されていない場合は、本書では「その他の作品」として最後の第9章に表記しておいた。

本書における長文にわたる解題は、それらの作品が書かれた背景について解説したものである。すなわち、ナイチンゲールの著作が書かれた経緯、また内容についての簡単な紹介、そして世界におけるそれらの著作の評価、などがその内容となっている。

この解説著作目録は、全部で9章から成り立っている。しかし多くの場合、個々の著作は、各章のなかでさらに幾つかのテーマごとに分類されており、最も重要だと思われる分類項目下で十分な解説がなされているが、他の分類項目との関係を示すための文献案内を、著作ごとに相互に載せておいた。それぞれの分類項目の中では、個々の著作は年代順に並べてある。

総計にして膨大な量の著作が、フロレンス・ナイチンゲールその人について、彼女が生きている期間を通じて、また1910年に没した後にも書かれてきた。これらの書物のほとんどは、二次的または派生的なものであり、今回の調査によって作成された本目録に載せる価値は小さいとみてよいだろう。この著作目録には、以下の項目に照らして選別されたものが含まれている。

1. フロレンス・ナイチンゲールと同時代に書かれた彼女に関する著作で、ナイチンゲール伝説を塗り替えることに寄与した作品。
2. 特にクリミア時代を中心として、彼女の生涯と業績がわかるように、その根拠が提示されている同時代の日記や史書。
3. 独自の調査によって裏付けられた重要な伝記と、その外国語翻訳本。
4. とりわけナイチンゲール女史の業績や思想に光を当てて書かれた記事や、これまでに出版されたことのない未完成の記事や手紙。
5. ナイチンゲール女史の友人や同僚についての伝記。

これら全ての刊行物や記事は、ナイチンゲール伝説の進展の道筋に、何らかの示唆が与えられるように、年代別に配置された文献目録として一覧表にまとめた。一冊の本が幾つかの版を重ねている場合は、初版と最新版の出版年月日を記載した。

SUE GOLDIE

1962年7月

Ⅲ. 【ナイチンゲール著作目録】の全体像と邦訳の現状

【A Bio-Bibliography of Florence Nightingale】では、150編のナイチンゲール文献がその内容によって9つのグループに分類されており、それぞれが独立した章を構成している。各章に配置されている文献は、さらにテーマごとに分類され、全て発行年ごとに紹介されている。最後の第10章におい

では、1854年～1954年の100年間に書かれたナイチンゲール文献とナイチンゲールに関する文献が、時間軸にしたがって一覧表として掲載されている。

ナイチンゲール著作目録9章分の内容は、以下のとおりである。

第1章：NURSING：看護（No.1～47）－合計47編

Nos. 1-12. General works on Nursing（看護についての全般的展開）

13-23. The Development of Workhouse and District Nursing（救貧院および地区看護の発展）

24-47. Messages to Nurses（看護師たちへのメッセージ）

第2章：THE ARMY：英国陸軍（No.48～58）－合計11編

第3章：INDIAN AND COLONIAL WELFARE：インドおよび植民地の福祉（No.59～97）

－合計39編

Nos. 59-93. India（インドについて）

94-97. Colonial Welfare（植民地の福祉について）

第4章：HOSPITALS：病院（No.98～105）－合計8編

第5章：STATISTICS：統計学（No.106～108）－合計3編

第6章：SOCIOLOGY：社会学（No.109～117）－合計9編

第7章：MEMOIRS AND TRIBUTES：回顧録と献辞（No.118～125）－合計8編

第8章：RELIGION AND PHILOSOPHY：宗教と哲学（No.126～129）－合計4編

第9章：MISCELLANEOUS WORKS：種々雑多な記事（No.130～150）－合計21編

最も文献数が多いものは、第1章の看護について（47編）であるが、この中にはナイチンゲールが、ナイチンゲール看護学校の在校生や卒業生に送ったメッセージ（講演録）なども含まれており、必ずしも全てが論文に相当するものではない。また、同じ「1編」に数えられるにしても、長文のものから短い文章のものまで、さらに単行本として発刊されたものから、パンフレットや手紙の類まで、種々の著作形態がある。

全体の傾向としては、本書編者の Sue Goldie 女史が述べているように、ナイチンゲール文献は、実に多岐にわたるテーマによって構成されており、ナイチンゲールの多彩な能力と関心の広さとをうかがい知ることができる。

ここで、我が国におけるナイチンゲール文献の邦訳状況を、『A Bio-Bibliography of Florence Nightingale』150編の構成に沿って見てみよう。

以下、邦訳されている文献について、原文タイトルに続いて日本語タイトルを記し、邦訳の出典を明示する。各文献の先頭番号は、『A Bio-Bibliography of Florence Nightingale』中に、1番～150番の通し番号として用いられているものと同じ番号とした。

3. *Title*: Subsidiary notes as to the introduction of female nursing into military hospitals in peace and in war. 1858.

湯槇ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 女性による陸軍病院の看護－平時および戦時の陸軍病院へ女性による看護を導入する件に関する補助覚え書. ナイチンゲール著作集 (第一巻). 東京: 現代社. 1975. p.35~138.

4. *Title*: Notes on nursing: what it is, and what it is not. 1860.

- ① 小玉香津子訳. 看護覚え書 (連載11回). 総合看護. 1967;2(3)~1968;3(2).
- ② 小玉香津子訳. 看護覚え書. 東京: 現代社. 1968. (付録: 1861年版・赤ん坊の世話)
- ③ 尾田葉子訳. 看護覚え書き－本当の看護とそうでない看護について. 東京: 日本看護協会出版会. 1985. (付録: 英国で看護婦として雇用されている女性の数についての注釈)

5. *Title*: Notes on Nursing: what it is and what it is not. 1860.

- ① 湯槇ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 看護覚え書－看護であること、看護でないこと－増補改定新版. ナイチンゲール著作集 (第一巻). 東京: 現代社. 1975. p.139~414. (付録: 1861年版: 赤ん坊の世話)
- ② 湯槇ます, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 小南吉彦訳. 看護覚え書. 東京: 現代社. 1975. (付録: 1861年版: 赤ん坊の世話)
- ③ 小林章夫・竹内喜訳. 看護覚え書き. 東京: うぶすな書院. 1995. (付録: 1861年版: 赤ん坊の世話)
- ④ 湯槇ます, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 小南吉彦訳. 看護覚え書－看護であること・看護でないこと. 改定第6版. 東京: 現代社. 2000年. (付録: 1861年版: 赤ん坊の世話)
- ⑤ ヴィクター・ススレクトコヴィッチ編・助川尚子訳. 看護覚え書 決定版. 東京: 医学書院. 1998. (付録: 1861年版: 赤ちゃんの保育)

9. *Title*: Suggestions on a system of nursing for hospitals in India. 1865.

湯槇ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. インドの病院における看護－インドの看護システムについての助言. ナイチンゲール著作集 (第一巻). 東京: 現代社. 1975. p.415~463.

10. *Title*: Hospitals and patients. 1880.

- ① 湯槇ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 小南吉彦編訳. 病院と患者. ナイチンゲール著作集 (第二巻). 東京: 現代社. 1974. p.67~74.
- ② 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 山本利江, 和住淑子, 小南吉彦訳. 病院と患者. 看護小論集－健康とは病気とは看護とは. 東京: 現代社. 2003. P.133~142.

11. *Title*: Nurses, training of: [and] Nursing the sick. 1882.

- ① 湯槇ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 小南吉彦編訳. 看護婦の訓練と病人の看護. ナイチンゲール著作集 (第二巻). 東京: 現代社. 1974.

- ② 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 山本利江, 和住淑子, 小南吉彦訳. 看護婦の訓練. 看護小論集－健康とは病気とは看護とは. 東京：現代社. 2003. p.143～166.

12. *Title: Sick-nursing and health-nursing. 1893.*

- ① 湯楨ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 小南吉彦編訳. 病人の看護と健康を守る看護. ナイチンゲール著作集 (第二巻). 東京：現代社. 1974. p.125～156.
- ② 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 山本利江, 和住淑子, 小南吉彦訳. 病人の看護と健康を守る看護. 看護小論集－健康とは病気とは看護とは東京：現代社. 2003. p.39～80.

16. *Title: Suggestions on the subject of providing, training, and organizing nurses for the sick poor in workhouse infirmaries. 1867.*

湯楨ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 小南吉彦編訳. 救貧院病院における看護. ナイチンゲール著作集 (第二巻). 東京：現代社. 1974. p.3～52.

19. *Title: On trained nursing for the sick poor. 1876.*

- ① 湯楨ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 小南吉彦編訳. 貧しい病人のための看護. ナイチンゲール著作集 (第二巻). 東京：現代社. 1974. p.53～66.
- ② 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 山本利江, 和住淑子, 小南吉彦訳. 貧しい病人のための看護. 看護小論集－健康とは病気とは看護とは. 東京：現代社. 2003. p.115～132.

20. *Title: Introduction to the 'History of nursing in the homes of the poor. 1890.*

尾田葉子訳. ウィリアム・ラスボーン著『貧しい人々のための訪問看護のあゆみ』への序文. ナーシング・トゥデイ. 1986;1(5):22-24.

22. *Title: Health teaching in towns and villages. 1894.*

湯楨ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 小南吉彦編訳. 町や村での健康教育. ナイチンゲール著作集 (第二巻). 東京：現代社. 1974. p.157～185.

25. *Title: Florence Nightingale to her nurses. 1872-1888*

湯楨ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 看護婦と見習生への書簡 1872～1900年. ナイチンゲール著作集 (第三巻). 東京：現代社. 1977. p.263～454.

26. *Title: Address from Miss Nightingale to the probationer-Nurses in the 'Nightingale Fund' School, at St. Thomas's Hospital, and the nurses who were formerly trained there. 1872*

- ① ナイチンゲール書簡集. 東京：ABC企画. 1974.
- ② 湯楨ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 看護婦と見習生への書簡 1872～1900年. ナイチンゲール著作集 (第三巻). 東京：現代社. 1977. p.263～454.
- ③ 湯楨ます, 薄井坦子, 小玉香津子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 新訳・ナイチンゲール書簡集. 東京：現代社. 1977.

[Also, abridged, in] Florence Nightingale to her nurses. [Edited by Mrs. Rosalind Nash].

教文館編集部訳. ナイチンゲール書翰集. 東京：教文館. 1939.

浜田泰三訳. ナイチンゲール書簡集. 東京：隆鳳堂. 1958.

浜田泰三訳, ナイチンゲール書簡集, 東京：山崎書店. 1964.

27. *Title*: Address from Miss Nightingale to the probationer-nurses in the 'Nightingale Fund' School at St. Thomas's Hospital and the nurses who were formerly trained there. 1873.

① ナイチンゲール書簡集. 東京：ABC企画. 1974.

② 湯楨ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 看護婦と見習生への書簡 1872~1900年. ナイチンゲール著作集 (第三巻). 東京：現代社. 1977. p.263~454.

③ 湯楨ます, 薄井坦子, 小玉香津子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 新訳・ナイチンゲール書簡集. 東京：現代社. 1977.

[Also, slightly abridged, in] Florence Nightingale to her nurses. [Edited by Mrs. Rosalind Nash].

教文館編集部訳. ナイチンゲール書翰集. 東京：教文館. 1939.

浜田泰三訳. ナイチンゲール書簡集. 東京：隆鳳堂. 1958.

浜田泰三訳, ナイチンゲール書簡集, 東京：山崎書店. 1964.

30. (i) *Title*: Address from Florence Nightingale to the probationer-nurses in the 'Nightingale Fund' School, at St. Thomas's Hospital, and the nurses who were formerly trained there. 1874.

① ナイチンゲール書簡集. 東京：ABC企画. 1974.

② 湯楨ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 看護婦と見習生への書簡 1872~1900年. ナイチンゲール著作集 (第三巻). 東京：現代社. 1977. p.263~454.

③ 湯楨ます, 薄井坦子, 小玉香津子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 新訳・ナイチンゲール書簡集. 東京：現代社. 1977.

[Also in] Florence Nightingale to her nurses. [Edited by Mrs. Rosalind Nash].

教文館編集部訳. ナイチンゲール書翰集. 東京：教文館. 1939.

浜田泰三訳. ナイチンゲール書簡集. 東京：隆鳳堂. 1958.

浜田泰三訳, ナイチンゲール書簡集, 東京：山崎書店. 1964.

32. (i) *Title*: Address from Florence Nightingale to the probationer-nurses in the 'Nightingale Fund' School at St. Thomas's Hospital and the nurses who were formerly trained there. 1875.

① ナイチンゲール書簡集. 東京：ABC企画. 1974.

② 湯楨ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 看護婦と見習生への書簡 1872~1900年. ナイチンゲール著作集 (第三巻). 東京：現代社. 1977.

p.263～454.

[Also, abridged, in] Florence Nightingale to her Nurses. [Edited by Mrs. Rosalind Nash].

教文館編集部訳. ナイチンゲール書翰集. 東京：教文館. 1939.

浜田泰三訳. ナイチンゲール書簡集. 東京：隆鳳堂. 1958.

浜田泰三訳, ナイチンゲール書簡集, 東京：山崎書店. 1964.

33. (i) *Title*: Address from Florence Nightingale to the probationer-nurses at St. Thomas's Hospital, and the nurses who were formerly trained there. 1876.

① ナイチンゲール書簡集. 東京：ABC企画. 1974.

② 湯楨ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 看護婦と見習生への書簡 1872～1900年. ナイチンゲール著作集 (第三巻). 東京：現代社. 1977.

p.263～454.

③ 湯楨ます, 薄井坦子, 小玉香津子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 新訳・ナイチンゲール書簡集. 東京：現代社. 1977.

[Also, abridged, in] Florence Nightingale to her Nurses. [Edited by Mrs. Rosalind Nash].

教文館編集部訳. ナイチンゲール書翰集. 東京：教文館. 1939.

浜田泰三訳. ナイチンゲール書簡集. 東京：隆鳳堂. 1958.

浜田泰三訳, ナイチンゲール書簡集, 東京：山崎書店. 1964.

34. [Printed letter] To the nurses of the Edinburgh Royal Infirmary. 1878

湯楨ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 看護婦と見習生への書簡 1872～1900年. ナイチンゲール著作集 (第三巻). 東京：現代社. 1977. p.263～454.

35. *Title*: (Private) New Year's Day 1878. Letter from Miss Nightingale.

湯楨ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 看護婦と見習生への書簡 1872～1900年. ナイチンゲール著作集 (第三巻). 東京：現代社. 1977. p.263～454.

36. *Title*: Letter from Florence Nightingale to the Probationer-Nurses in the 'Nightingale Fund' School at St. Thomas's Hospital. Easter, 1879.

① ナイチンゲール書簡集. 東京：ABC企画. 1974.

② 湯楨ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 看護婦と見習生への書簡 1872～1900年. ナイチンゲール著作集 (第三巻). 東京：現代社. 1977.

p.263～454.

[Also, abridged, in] Florence Nightingale to her nurses. [Edited by Mrs. Rosalind Nash].

浜田泰三訳. ナイチンゲール書簡集. 東京：隆鳳堂. 1958.

浜田泰三訳, ナイチンゲール書簡集, 東京：山崎書店. 1964.

37. *Title*: May 6, 1881. Letter from Florence Nightingale.

① 湯楨ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 看護婦

と見習生への書簡 1872～1900年. ナイチンゲール著作集 (第三巻). 東京: 現代社. 1977.
p.263～454.

- ② 湯槇ます, 薄井坦子, 小玉香津子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 新訳・ナイチンゲール書簡集.
東京: 現代社. 1977.

38. *Title:* From Florence Nightingale to the Probationer-Nurses in the 'Nightingale Fund' Training School, at St. Thomas's Hospital, and to the nurses who were formerly trained there. May 23, 1883.

- ① 湯槇ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 看護婦と見習生への書簡 1872～1900年. ナイチンゲール著作集 (第三巻). 東京: 現代社. 1977.
p.263～454.

- ② 湯槇ます, 薄井坦子, 小玉香津子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 新訳・ナイチンゲール書簡集.
東京: 現代社. 1977.

39. [Letter dated July 3, 1884, to the Nightingale probationers. In]

湯槇ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 看護婦と見習生への書簡 1872～1900年. ナイチンゲール著作集 (第三巻). 東京: 現代社. 1977. p.263～454.

40. *Title:* To the probationer-nurses of the Nightingale Fund School at St. Thomas's Hospital. Florence Nightingale. New Year's Day, 1886.

湯槇ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 看護婦と見習生への書簡 1872～1900年. ナイチンゲール著作集 (第三巻). 東京: 現代社. 1977. p.263～454.

41. *Title:* To the probationer nurses in the Nightingale Fund School, at St. Thomas's Hospital from Florence Nightingale, May 16, 1888.

湯槇ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 看護婦と見習生への書簡 1872～1900年. ナイチンゲール著作集 (第三巻). 東京: 現代社. 1977. p.263～454.

[Also, abridged, in] Florence Nightingale to her nurses. [Edited by Mrs. Rosalind Nash].

浜田泰三訳. ナイチンゲール書簡集. 東京: 隆鳳堂. 1958.

浜田泰三訳, ナイチンゲール書簡集, 東京: 山崎書店. 1964.

43. *Title:* To the nurses and probationers trained under the 'Nightingale Fund.' London, June 1897.

- ① 湯槇ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 看護婦と見習生への書簡 1872～1900年. ナイチンゲール著作集 (第三巻). 東京: 現代社. 1977.
p.263～454.

- ② 湯槇ます, 薄井坦子, 小玉香津子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 新訳・ナイチンゲール書簡集.
東京: 現代社. 1977.

44. [Letter addressed at end] 'To all our nurses, May 28, 1900.'

① 湯楨ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦訳. 看護婦と見習生への書簡 1872~1900年. ナイチンゲール著作集 (第三巻). 東京: 現代社. 1977. p.263~454.

② 湯楨ます, 薄井坦子, 小玉香津子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 新訳・ナイチンゲール書簡集. 東京: 現代社. 1977.

47. *Title:* Memorandum for probationers as to finger poisoning, etc. Dated July, 1878.

小玉香津子訳. はじめて病棟勤務につく見習生へー手指の清潔などについて. ナーシング・トゥデイ. 1986;1(8):30-32.

50. *Title:* Notes on matters affecting the health, efficiency, and hospital administration of the British Army, founded chiefly on the experience of the late war. 1858

(一部解説)

多尾清子. 英国陸軍の保健、能率および病院管理に関する諸問題についての覚え書. 統計学者としてのナイチンゲール. 東京: 医学書院. 1991.

52. *Title:* Mortality of the British Army, at home, at home and abroad, and during the Russian War, as compared with the mortality of the civil population in England. Illustrated by tables and diagrams. Reprinted from the Report of the Royal Commission appointed to enquire into the Regulations Affecting the Sanitary State of the Army. 1858.

① 松野修, 久繁哲徳訳. 国内、国内と国外、およびロシア戦争中における英国陸軍の死亡率と、イングランド市民の死亡率との比較. 総合看護, 1988;23(4):7-37~1989;24(1):7-27.

② (一部解説)

多尾清子. 英国陸軍の死亡率. 統計学者としてのナイチンゲール. 東京: 医学書院. 1991. p.40-59.

53. *Title:* A contribution to the sanitary history of the British Army during the late war with Russia. 1859.

(一部解説)

多尾清子. 対ロシア戦争中の英国陸軍衛生史への寄稿. 統計学者としてのナイチンゲール. 東京: 医学書院. 1991. p.60-72.

55 *Title:* Observations on the evidence contained in the stational reports submitted to her by the Royal Commission on the sanitary state of the army in India. 1863.

湯楨ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. インド駐在陸軍の衛生. ナイチンゲール著作集 (第三巻). 東京: 現代社. 1977. p.3~84.

67. *Title:* Life or death in India. Sub-Title: Life or death in India under the Zemindarry system. 1874.

湯楨ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. インドにお

ける生と死. ナイチンゲール著作集 (第三卷). 東京:現代社. 1977. p.85~140.

101. *Title*: Notes on hospitals. 1863

① 小玉香津子訳. 病院覚え書 (連載15回). 総合看護 1970;5(2):6-17~1974;9(2):85-98.

② 湯槇ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 小南吉彦編訳. 病院覚え書. ナイチンゲール著作集 (第二卷). 東京:現代社. 1974. p.185-334.

102. *Title*: Introductory notes on lying-in institutions. 1871.

薄井坦子, 小玉香津子訳. 産院覚え書 (連載6回). 総合看護 1983;18(1):59-73~1984;19(2):7-20.

109. *Title*: Cassandra. 1860

湯槇ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. カサンドラ. ナイチンゲール著作集 (第三卷). 東京:現代社. 1977. p.202-242.

110. *Title*: Note on the supposed protection afforded against venereal disease by recognizing prostitution and putting it under police regulation. 1863.

掛川和嘉子訳. 性病対策について. ナーシング・トゥデイ. 1986;1(2):22-25.

112. *Title*: A note on pauperism. 1869.

① 向野宣之、金井一薫訳. 救貧覚え書. 総合看護 1985;19(1):53-79.

② 金井一薫訳. 救貧覚え書. ケアの原形論. 東京:現代社. 2004.

113. *Title*: Who is the savage? 1878.

小玉香津子訳. この野蛮人は誰か?. ナーシング・トゥデイ. 1986;1(1):22-25

116. *Title*: Opinions of women on women's suffrage. 1878,

掛川和嘉子訳. 婦人参政権についての意見. ナーシング・トゥデイ. 1986;1(7):30-32.

121. Memorials of Agnes Elizabeth Jones. 1871.

湯槇ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. アグネス・ジョーンズをしのんで. ナイチンゲール著作集 (第三卷). 東京:現代社. 1977. p.243-262.

127. (i) *Title*: Suggestions for thought to the searchers after truth among the artizans of England.

(ii) Suggestions for thought to searchers after religious truth. Vol. II.

(iii) Suggestions for thought to searchers after religious truth. Vol. III. 1860.

湯槇ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. 思索への示唆 (抄). ナイチンゲール著作集 (第三卷). 東京:現代社. 1977. p.141-186.

132. *Title*: The Institution of Kaiserswerth on the Rhine for the practical training of Deaconesses, under the direction of the Rev. Pastor Fliedner, embracing the support and care of a hospital, infant and industrial schools, and a female penitentiary. 1851.

湯槇ます監修, 薄井坦子, 小玉香津子, 田村真, 金子道子, 鳥海美恵子, 小南吉彦編訳. カイゼルスウェルト学園によせて. ナイチンゲール著作集 (第一卷). 東京:現代社. 1975. P. 3-34.

139. Title: From Nurse Wilson's, Nurse Styring's, Nurse Cross's and Nurse Webb's accounts of the shipwreck on their voyage home from Canada on duty. 1878.

掛川和嘉子訳. 看護婦遭難事故に遭う. ナーシング・トゥデイ 1986;1(4):22-25.

144. Health and Local Government, 1894.

掛川和嘉子訳. 保健衛生と地方行政機関. ナーシング・トゥデイ1986;1(3):24-26.

145. [Letter, dated February 4, 1895, to 'Uncle Toby' of the Dicky Bird Society. In] Newcastle Chronicle's Weekly Supplement, February 16, 1895,

小玉香津子訳. 小鳥たち. ナーシング・トゥデイ 1986;1(6):30-32.

150. [Remarks by Miss Nightingale on a Register for nurses]. Royal British Nurses' Association.

金井一薫, 小南吉彦訳. 看護婦登録制度についての意見書 - 王立英国看護婦協会の見解への反論 1892. 総合看護 1987;22(1):29-44.

IV. 考察：『A Bio-Bibliography of Florence Nightingale』が、 日本のナイチンゲール思想研究に及ぼした影響について

生きながらにして伝説化されたナイチンゲールの姿は、多くの伝記を通して日本の国民にも紹介された。ナイチンゲールが存命の1890年に、最初の邦訳本『フロレンス・ナイチンゲール』¹が出版され、さらに1901年には本格的な日本人による伝記²が編まれた。その後続々とナイチンゲール紹介は続いて、今日に至っている。

また、晩年のナイチンゲールが棲み暮らしたロンドン・サウスストリート1番地のマンションには、何人かの日本人が訪れ、面会したとの記録もある。³その代表的人物は、津田塾大学を創設した津田梅子女史である。その他、明治8年から13年まで、ロンドンのセント・トーマス病院医学校に留学していた医師の高木兼寛氏は、直接的ではないにせよ、ナイチンゲール思想に接した可能性は高い。“病気を診ずして病人を診よ”という高木氏の創設になる現・東京慈恵会医科大学のモットーは、当時のナイチンゲールの文章と同じ表現である。

このように、ナイチンゲールの存在とその業績は、ヨーロッパやアメリカに留学または視察に訪れて、帰国した人々から伝えられ、評価されていったようである。さらにクリミア戦争時におけるナイチンゲールの活躍が、第一次～第二次世界大戦を通して、従軍看護師の価値を高め、社会における指導層の女性たちを鼓舞する形で結び付けられたことも事実である。

また、一般国民への伝達ルートとは別に、ナイチンゲールの業績は基礎看護教育を通して、殊に看護歴史の教科書の記述を通して看護師たちに教えられるところとなった。しかし、ナイチンゲール自身の著作の存在が周知されていない時代には、当然ながら、彼女の看護思想については教育・研究さ

¹ シー・カルクス, 北山初太郎訳. フロレンス・ナイチンゲール. 秀英舎, 1890.

² 女子之友記者勁林園主人編. ナイチンゲール. 西洋傑婦伝第二編. 東洋社, 1901.

³ 長門谷洋治. ナイチンゲールに会った日本人. 看護教育, 1969;10(12):60-64.

れることはなかった。わが国でナイチンゲール思想が明らかになるのは、1967～8年に、初版本の『看護覚え書』が『季刊・総合看護』誌上に翻訳連載され、さらにそれが単行書として刊行⁴されてからである。現在では、ナイチンゲールが編んだ3編の『看護覚え書』（初版本・改訂版・労働者版）のなかで、ナイチンゲールが最も力を入れて書いたと言われる、看護師向けの増補改訂版⁵が日本の看護師教育の中では定番となっており、看護学生はその生涯の学習過程の初期の段階で、『看護覚え書』と向き合うように育てられている。

さて、ナイチンゲールの文献目録を最初に公開したのは、Edward Cook 卿である。彼はナイチンゲールの没直後（1913年）に本格的な伝記⁶を編んだが、その末尾に、ナイチンゲールが書いた文献147編について、「文献目録A」として年代順に一覧表にして掲載している。しかしCookの伝記が邦訳されたのは1994年になってからで、我が国においてはこのリストについては、ほとんど関心が払われてこなかった。

ナイチンゲール文献の原文の一部を目にすることができるようになったのは、Lucy Ridgely Seymer 女史の功績に負うところが大きい。彼女の編集になる『Selected writings of Florence Nightingale』（1954年）には、9編の“看護についての文献”が掲載されている。本書が日本の編集者の目に留まり、そのうちの1編『看護覚え書』（初版本）が、先に述べたように『季刊・総合看護』に邦訳されたのであった。したがって、Bishop氏による本格的な調査の結果が出版されるまでの間、我が国のナイチンゲール思想研究は、このLucy Ridgely Seymer版によって行われていたのである。

『A Bio-Bibliography of Florence Nightingale』（1962年）が発刊されたことによって、初めてナイチンゲール文献の全体像が明らかにされた。同時に、ナイチンゲールの知られざる側面も解き明かされていった。つまり、ナイチンゲールは実に多岐にわたるテーマに取り組んでいたことが判明したのである。またその内容の奥深さと見事な記述から、ナイチンゲールに備わっていた多面的な能力も浮かび上がってきた。彼女はこれまで世に伝えられてきたような、単なる優れた看護師ではなく、時の医療や衛生にまつわる社会改革者であり、行政官であり、衛生学者であり、同時に統計学者であり、病院建築家でもあった。さらに陸軍の衛生状態を改善した実務家であり、インドの人々の健康と幸福の実現のために数々の提言をした人であり、現代に見るソーシャルワーカーでもあった。

しかしながら、結果としてナイチンゲールが残した真の業績は、看護の本質を究めた看護思想家としての中に見出すことができる。ナイチンゲールが思考によって導き出し、措定した看護の原理、あるいは看護の理念は、時代と国を超えて継承される価値があり、世界の看護師に与えた影響は計り知れない。この見方を可能にしたのは、『A Bio-Bibliography of Florence Nightingale』の存在と、実在する原著が入手可能だったお陰である。

⁴ ① 小玉香津子訳. 看護覚え書 (連載11回). 総合看護, 1967;2(3)～1968;3(2).

② 小玉香津子訳. 看護覚え書. 東京: 現代社, 1968. (付録: 1861年版・赤ん坊の世話)

⁵ Notes on Nursing: what it is and what it is not. 1860.

⁶ Sir Edward Cook. The Florence Nightingale. Macmillan & C, 1913.

今回の筆者による文献調査で、『A Bio-Bibliography of Florence Nightingale』に収められている150編の文献目録のうち、現時点において邦訳されている文献数は47編あることが明らかになった。参考までに、47編の邦訳文献の出典をまとめてみた。表1を読むにあたって注意しなければならない点は、同一のナイチンゲール文献が複数の出版社で翻訳・刊行されているものもあるし、同一の出版社においても、同一の文献が異なる書籍として出版されているので、邦訳文献数の合計数値は47編にはならないということである。

(表1)

A Bio-Bibliography of Florence Nightingale	『ナイチンゲール著作集』 (全3巻)	『季刊・総合看護』	その他の書籍 および雑誌媒体
第1章(47編)	25編	1編	45編
第2章(11編)	1編	1編	3編
第3章(39編)	1編	0	0
第4章(8編)	1編	2編	0
第5章(3編)	0	0	0
第6章(9編)	1編	1編	3編
第7章(8編)	1編	0	0
第8章(4編)	1編	0	0
第9章(21編)	1編	1編	3編
合計 150編	合計 32編	合計 6編	合計 54編

表1から、邦訳の全体像は容易に把握できる。

日本の看護学界は、やはり圧倒的に第1グループの“看護についての文献”の邦訳に努めてきたことがわかる。しかし『A Bio-Bibliography of Florence Nightingale』には、ナイチンゲールが書いた講演録(書簡)が14編も含まれており、それらを翻訳した書籍は6点もあることから、それだけで邦訳文献数は相当数を数えることになる。また世界的名著である『看護覚え書』の評価は高く、初版本・増補改定版の翻訳に取り組んだ出版社もまた多い。同一のタイトルでありながら、邦訳文献数は8編にも及んでいることがこれを物語っている。このようにみえてくると、第1グループの計71編のうち56編が『講演録』と『看護覚え書』の邦訳で占められているのである。さらにナイチンゲールの看護思想を探るには、残りの15編にも着目する必要があるだろう。

一方で、邦訳文献数は少ないものの、第2～第9グループのどの領域においても、万遍なく訳出されていることが見て取れる。この事実は日本のナイチンゲール思想研究にとっては、たいへん重要な点である。つまりナイチンゲールを看護の創設者・改革者としてみるだけでなく、多領域にわたって大きな影響を及ぼした思想家としてみていくための根拠が存在すると言えるからである。日本において、ナイチンゲール著作文献の翻訳が、偏りのないように全領域にわたって進められてきたことが、

日本人によるナイチンゲール思想研究の厚みを可能にし、彼女を思想家として位置づけることに成功した大きな要因であると言えるだろう。

さらに一言追加しておく。第5グループの統計学の分野の邦訳はゼロと出ているが、統計学の内容は第4グループの病院についての文献と重複するところが多く、ナイチンゲールの統計学における才能は、第4グループの文献の邦訳によって明らかにされていることから、“ナイチンゲールの統計と病院”として括ることができるので、これをもって欠落と指摘するには当たらない。

結論として、日本においてナイチンゲールの著作の全体を体系的に把握しようとしたばあい、まずは『ナイチンゲール著作集（全三巻）』を中心にして読み進み、著作集の中には加えられていない領域の論文を視野に入れて思考を進めれば、ナイチンゲールの看護思想の真髄を探り当てることができるはずである。

日本におけるナイチンゲール著作文献の解説は、現時点で一応の完成をみたと言えるが、未だ手付かずの研究分野もあり、今後は次なる思索の段階に向けて、新たな研究の扉が開かれることを望むものである。このばあい、『A Bio-Bibliography of Florence Nightingale』は、確かな道標の役割を果たすであろう。

V. 主要文献

1. A Bio-Bibliography of Florence Nightingale compiled by the late W. J. Bishop, F.L.A. completed by Sue Goldie, B. A. Oxon. London; Dawsons of Pall Mall. 1962.
2. Sir Edward Cook. The Florence Nightingale. Macmillan & C, 1913.
3. Lucy Ridgely Seymer Selected writings of Florence Nightingale. New York;The Macmillan Company. 1954.

追記

本研究は、東京有明医療大学・看護学科研究助成金による研究の成果である。本大学紀要第1号に寄稿できたことは、望外の喜びである。